

# 東京都大田区を対象としたモノづくり観光研究会の取り組み：

## 首都大学東京大学院観光科学域における PBL 報告 その1

### Achievements of “Industrial Tourism Studio” in Ota-ward: A Report of Project-Based Learning in Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University Part 1

岡村 祐\*・川原 晋\*・野原 卓\*\*・今井 司\*\*\*・田中良典\*  
Yu Okamura Susumu Kawahara Taku Nohara Tsukasa Imai Yoshinori Tanaka  
森田美佐子\*・金子真司\*・比嘉啓登\*・林 懿嫻\*  
Misako Morita Shinji Kaneko Hiroto Higa Yi-Hsien Lin

#### 摘要

本報告は、首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域における PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）の一つとして取り組まれているモノづくり観光研究会の平成 21 年度の成果をまとめたものである。当研究会では、大田区をフィールドに「住」と「工」が近接・共生しているという都市の状態、あるいはそこでの「工」が抱える人的、技術的、空間的資源を魅力として捉え、1) 工場経営者等の個性やアイデアを明らかにする調査（工場訪問ヒアリング調査）や 2) 工場を取り巻く物理的環境（建築、都市基盤）を明らかにする調査（モノづくりのまちの都市基盤・建築調査）を実施し、その魅力を外部に伝えるためのまち歩きイベントを企画、運営した。

#### I. モノづくり観光研究会について

モノづくり観光研究会<sup>1)</sup>は、平成 21 年 4 月に筆者ら（首都大学東京大学院観光科学域川原・岡村、および大学院生）によって発足した研究プロジェクトチームである。研究会発足のきっかけは、区内の観光資源の発掘や産業・観光を活かした地域振興に学術的視座を求めていた大田観光協会（事務局長：栗原洋三氏）と PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）としてニューツーリズムに関する調査研究や産業を活用した新たな観光まちづくりの実践的プロジェクトの機会を望む大学側の思惑が一致したことによる。

かくして、プロジェクトは大田区をフィールドに、モノづくりに関わる多様な資源（製品、技術、職人、工場建築、都市基盤等）を活かしたまちの将来像を構想し、計画し、アクションを起こすことを目的に進められている。

これまでも大田区工場を対象とした調査研究は多く実施され、特に昭和 50 年代から 60 年代には都市計画として「住」と「工」をどのように扱うかという土地利用計画に関する研究や、特に近年は産業構造の転換を図るべく技術や製品などの工業振興や経営的側面に光が当たった調査が行われてきた。本プロジェクトでは、改めて「住」と「工」が近接・共生しているという都市の状態、あるいはそこでの「工」が抱える人的、技術的、空間的資源を魅力として捉え、平成 21 年度には、1) 工場経営者等の個性やアイデアを明らかにする調査（第Ⅲ章：工場訪問ヒアリング調査）や 2) 工場を取り巻く物理的環境（建築、都市基盤）を明らかにする調査（第Ⅳ章：モノづくりのまちの都市基盤・建築調査）を実施した。加えて、その魅力を伝えるためのまち歩きイベントを企画、運営した（第Ⅴ章）。

調査研究体制としては、本研究会メンバーに加え、大田観光協会や地域でモノづくりの新たな展開をしかけている田中裕人氏（ソシオミュゼ・デザイン株式会社）をはじめ、区の産業振興課や財団法人大田区産業振興協会のアドバイスを頂いている。また、平成 22 年度からは、横浜国立大学大学院の野原卓准教授および

\*首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (10 号館)  
e-mail okamura.u@gmail.com  
\*\*横浜国立大学横浜国立大学大学院工学研究院  
\*\*\*財団法人計量計画研究所

び大学院生、また東京大学大学院の大学院生もメンバーに加わり、3 大学連携によるプロジェクトとして展開している。

## II. 大田区におけるモノづくりの特質

はじめに大田区におけるモノづくりの特質の概要を述べる。大田区には、現在 4300 件ほどの工場が立地している。そのうち、従業員数 19 名以下の事業所が 8 割以上を占め、いわゆる中小零細工場が集積している。機械金属工業の分野に強く、業種分類でみると金属製品、一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具、精密機械器具、プラスチック製品の 6 業種で工場数の 8 割以上を占めている。

区内では工場間や経営者、技術者、技能者同士の濃密なネットワークが形成され、互いに仕事の受注・発注の取引関係を形成し、技能的な課題の解決やものづくりの人材の流動などの補完関係が自然発生的に培われている。しかもその工場同士が自転車で行ける程近くにあることから、「仲間回し」あるいは「自転車ネットワーク」と呼ばれている<sup>2)</sup>。

近年、後継者不足、取引先の海外移転、デジタル化に伴う基盤技術の海外移転などにより工場数、従業員数ともに減少傾向にあり、ピーク時の 1970 年代には 8000 件を超えた工場数も、現在ではほぼ半減している。このように大田区の工業をとりまく環境は非常に厳しく、産業振興の側面のみならず、都市全体の問題として課題解決にあたっていく必要があると考える。

## III. 工場訪問ヒアリング調査

工場の多様な魅力を引き出すことやモノづくりを基盤としたまちづくりや観光の将来像を描いていく上での基礎的データを収集することを目的として、工場訪問ヒアリング調査を実施した。期間は、2009 年 10 月下旬から 2010 年 1 月上旬にかけての 4 ヶ月であり、大田区東部に位置する京浜島・城南島・昭和島・大森西地区の 28 社を対象とした。調査対象となる工場は、既に「優工場」認定工場<sup>3)</sup>または「大田ブランド」登録企業<sup>4)</sup>を優先的に抽出した。ヒアリング調査は、1 時間程度のなかで、以下の項目について各社の状況をうかがった(表 1・写真 1)。

表 1 質問項目

モノづくり	業種/技術/製造品/やりがい・苦勞/きっかけ
会社の歴史	創業当時/その後の変遷
仕事上のネットワーク	垂直的関係/水平的関係/その他の工場同士/異業種との連携
工場と地域・まちづくりとの関係	地域・まちづくりの捉え方/過去の実績/将来展望
産業観光・モノづくり観光に対する取り組み	工場ツアー経験/子供の体験学習
その他	工場か抱える問題/魅力を伝えるアイデア



写真 1 工場訪問ヒアリング調査の様子

本調査は 2 ヶ年計画であり、本年度までの成果としては次年度の調査方法等に対する課題を整理した。「その他(工場が抱える問題)」、「産業観光・モノづくり観光に対する取り組み」、「工場と地域・まちづくりとの関係」の質問項目については、新たなアイデアや現場の切実な声等、直接対話のインタビューならではの興味深い回答が得られた。一方、「モノづくり」、「会社の歴史」、「仕事上のネットワーク」については、概して調査員である大学院生にとって興味を持つ話題を開き出すことが難しかった。その要因としては、これらの項目に対して技術的側面に対する知識や事前準備不足等から内容を深める質問ができなかったことや会社のウェブサイトで容易に知り得るような情報しか聞き出すことができなかったといったことが推察された。また、現地で直感的に面白いと感じた内容(モノづくり観光への取り組みや魅力を伝えるアイデア等)については、突っ込んだ質問を重ねるといったヒアリング調査の技術の向上という課題も浮かび上がった。

## IV. モノづくりのまちの都市基盤・建築調査

次に、モノづくりを取り巻く物理的環境を明らかにするために、モノづくりの都市基盤・建築の歴史の変遷や現状について既存の文献資料調査およびフィールド調査を行った。調査結果は、表 2 に示すとおり 8 枚の A1 パネルにまとめ、平成 22 年 2 月 18~20 日開催

のおおた工業フェア<sup>5)</sup>にて展示した。

パネルの内容に関しては、埋立島地区や多摩川沿い地区等の特定の地域における歴史や現状の土地利用や建築用途・形態を重ね合わせた地図表現等は、区の関係課や大田区産業振興協会の関係者から好評を得た。



写真2 大田工業フェアでの展示の様子



図1 作成したパネルの例

表2 作成したパネルの内容

1	大田区のモノづくりの特徴	大田区における工場の立地特性や工場数、従業員数の推移等の基礎的データを整理した。
2	大田区と東大阪の産業集積	大田区同様に大都市近郊に位置し、製造業の小規模事業所が高密度に集積している東大阪市との比較を行った。
3	モノづくりのまちの成立・発展	工場集積地としての大田区の都市空間の歴史の変遷を整理した(明治末現在)
4	モノづくりのまちの成熟・転換	
5	モノづくり・モノ運びの埋立島(昭和島・京浜島・城南島地区)	大田区内の代表的な3つの工場集積地を取り上げ、土地利用、道路構成、建築形態、景観等に注目した詳細なエリアスタディを行った。
6	モノづくりのまちを守る(大森南・東糞谷・羽田旭町地区)	
7	東京モノづくりフロント(下丸子・矢口地区)	
8	『モノづくりのまち』のまちづくり	工場建築に着目し、その多様なタイプを整理し、住」と「工」の関係性の歴史の変遷を考察した。

## V. モノづくりのまち大田ウォークの開催

上記の調査研究の成果を踏まえて、「工場見学ツアー」を超えた「工場のまちツアー」を目指したまち歩きイベントを大田工業フェア最終日の2月20日に開催した。参加者は、都市計画やまちづくり系のメーリングリストで応募した総勢41名(スタッフ含)となった。

埋立島や多摩川沿いの地区でのマイクロバスを活用した車窓からの解説や無線オーディオシステムの活用による確実な情報伝達は、多くの参加者から好評を得た。一方で、観光対象として核となるものが欠如しているとの指摘や仮に工場に入らなくとも実際に工場で製造している製品の紹介の必要性がある等の意見が参加者から出された。



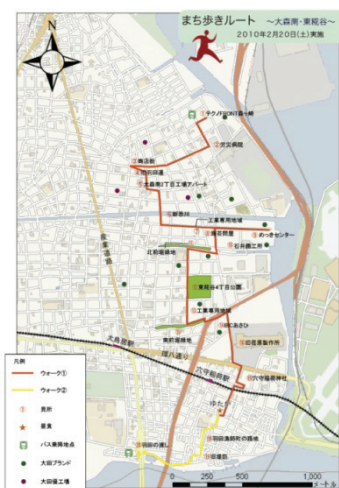


図2 まち歩きルート図

- 09:00 集合・受付  
工場アパート・テクノFRONT森ヶ崎へ移動（マイクロバス）
- 09:30 レクチャー
- 10:30 ウォーク①【大森南・東糀谷エリア】
- 12:30 昼食
- 13:30 ウォーク②【羽田（穴守稲荷神社・羽田の旧漁師町）】
- 14:30 下丸子・矢口へ移動（マイクロバス）
- 15:30 ウォーク③【下丸子・矢口エリア】
- 17:00 懇親会

図3 まち歩きイベント当日の流れ



写真3 まち歩きの様子

## VI. 今後の展望

平成22年度は、工場訪問ヒアリング調査をベースとして、モノづくりへのアクセシビリティを高めるためのモノづくり観光プログラム、モノづくりのまちの建築・都市空間の将来像、あるいは現代版モノづくりネットワークの構築といった都市や産業の大きな将来構想を描くという作業を進める同時に、大学やその他主体が関わりながら進めていく具体的なプロジェクトに着手できるような体制づくりやプロジェクト提案を行っていく。

## 謝辞

本プロジェクトは、一般社団法人大田観光協会ならびに財団法人日本都市計画学会（社会連携交流組織）からの研究助成を受けて実施しております。ここに記して感謝の意を表します。

本報告は、平成21年度のモノづくり観光研究会メンバー（川原晋、野原卓、岡村祐、今井司、田中良典、森田美佐子、金子真司、比嘉啓登、林懿嫻）の成果に基づくものである。

## 注

- 1) より一般的な「産業観光」という語に対して、本研究会が「モノづくり観光」を用いている理由としては、大田区内で第二次産業や工業を示す際に「モノづくり」が好んで使われているという点、また生産現場での見学や体験を基本とする既存の「産業観光」との差別化を図るという点を挙げることができる。
- 2) 大田区産業振興課ウェブサイト：[http://www.city.ota.tokyo.jp/sangyo/kogyo/kagayake/monozukurimachi/fri\\_tur/index.html](http://www.city.ota.tokyo.jp/sangyo/kogyo/kagayake/monozukurimachi/fri_tur/index.html)（最終アクセス日：2010年12月19日）
- 3) 大田区工場の優秀性を内外にアピールし、大田区工業の振興を図ることを目的に、財団法人大田区産業振興協会が経営や技術に優れた工場が、「優工場」として認定している。
- 4) 大田区内企業がネットワークをつくり、全国的・国際的なPR活動を行う組織として、社団法人大田工業連合会、東京商工会議所大田支部および財団法人大田区産業振興協会によって組織された大田ブランド推進協議会があり、区内105社がこれに登録している。
- 5) おおた工業フェアは、大田区、(財)大田区産業振興協会、(社)大田工業連合会が主催となり、毎年2月に大田区産業プラザ（PiO）で開かれるイベントであり、企業の商品展示や受発注商談の場として活用されている。

## 参考文献

- 大田区 2007. 「大田区の産業に関する実態調査」.
- 岸井隆幸 1977. 工場跡地の動態と課題 —東京都大田区を例  
に—, 日本都市計画学会学術研究発表論文集, pp.49-54.
- 財団法人大田区産業振興協会 2006. 「東京都大田区に見る日  
本産業の近未来」.
- 東京都商工指導所 1987. 「大都市住工混在地域の整備と戦略  
的工業集積の形成」.
- 中出文平 1982. 大田区住工混在地域における生産環境の変  
容と新たなる混在の進行に関する考察, 日本都市計画学会  
学術研究発表論文集, pp.283-288.
- 永野和邦 1987. 工業系地域における土地利用動向 —大田区  
工業系地域における調査分析—, 日本都市計画学会学術研  
究発表論文集, pp.193-198.

(投稿 : 2010 年 11 月 24 日)

(受理 : 2011 年 1 月 24 日)